

暮れないマーチ

作 亀尾佳宏

【登場人物】

ユキオ

トランクの男

サキオ

日傘の女

ダイスケ

車椅子の老人

コウイチ

車椅子を押す老人

ケンタ

公園で遊ぶ母

ユミ

公園で遊ぶ子

ユキ

サキ

舞台上に二人の少年。兄弟のようだ。兄は弟に物語を聞かせている。

ユキオ

とにかくね、その街の夕暮れはやけに長いんだ。普通は日が傾き始めるとすぐに夜になっちゃうだろ。でもその街の太陽はなかなか沈まない。沈みそうで沈まない。だから夕暮れだけがやけに長いんだ。

サキオ

どれくらい長いのか？

ユキオ

どれくらい長いかっていうと、そうだね、ゾウさんの鼻よりも、キリンさんの首よりも長い。

サキオ

それって、長いのか？

ユキオ

ああ、長い。

サキオ

長いとどうなるのか？

ユキオ

帰らなくてもいいんだ。

サキオ

え？

ユキオ

いつまでも夜にならないから、ずっとおうちに帰らなくてもいいんだ。

サキオ

ずっと、遊んでいられるのか？

ユキオ

うん、ずっとね。

サキオ

なんで終わらなくなっちゃったのか？

ユキオ

え？

サキオ

なんで夕方、終わらないのか？

ユキオ

帰らなくてもいいように。

サキオ

終わらないから帰らないのか？帰らないから終わらないのか？

ユキオ

さあね。どっちだろうね。・・二人の女の子は、そんな終わらない夕暮れの街に住んでたんだ。

サキオ

名前は？

ユキオ

え？

サキオ

その子たちの名前は？

ユキオ

ユキちゃんとサキちゃん。

サキオ

一緒だ。

ユキオ

うん。一緒だ。

ユキオ

サキオと、ユキオ兄ちゃんと一緒。

ユキオ

二人は、帰ることを忘れた時間に現れる。

夕日に焼きつく舞台。

駆け回る子どもたち、車椅子と、それを押す老人。日傘をさす女。トランクを持つ男たち、人々はゆっくりと動き始める。ここはいつまでも夕暮れであり続ける公園。

ユキオ

真昼の熱い太陽に焼かれた空気がゆっくりと降りてきて、汗ばんだ風景をオレンジ色に溶かしていく。この街の夕暮れは長い。それはまるで、太陽が沈んでいくことを拒んでいるかのように。夜でもない、昼でもない、どちらでもない時間がいつまでも続く街。二人の少女は、そんな街に住んでいたんだ。

光の中に二人の女の子が浮かび上がる。

ユキ 暮れないね。

サキ 暮れないね。

ユキ 今日もなかなか暮れないね。

サキ 今日もなかなか暮れないね。

ユキ 紅だね。

サキ 紅だね。

ユキ 今日もお日様紅だね。

サキ 真っ赤に燃えて紅だね。

ユキ それくない？

サキ これあげない。

ユキ これあげる。

サキ それいらない。

ユキ 日が暮れるよ。

サキ 日が、隠れるよ。

ユキ かくれんぼしてるよ。（少年たちをみて）

サキ かくれんぼしてるね。

ユキ かくレインボーだね。

サキ 何？レインボーって。

ユキ 虹のことだよ。

サキ 二時じゃないよ。もう六時だよ。

ユキ もう六時だね。

サキ もう六時だね。

サキ 夜でもない。

ユキ 夜でもない。

サキ 昼でもない。

ユキ 昼でもない。

サキ 夕暮れだね。

ユキ 夕暮れだね。

ユキオ

どちらでもない。どちらでもある。あいまいな黄昏時に続く二人のやり取り。それは終わりのないあやとり。少しずつ形を変えながらいつまでも続く、終わりのなき夕暮れの街の物語。

夕闇は色を濃くし、やがて夜へ。

蟬の声。

昼間の公園。三人の少年（ダイスケ・コウイチ・ケンタ）と一人の少女（ユミ）、網を手に見れる。ダイスケ網を振るがうまくとれない。コウイチ・ケンタ、ダイスケに見切りをつけ、それぞれ虫を捕る。ひとりだけうまくいかないダイスケは二人にいちやもんをつける。

ダイスケ

♪いーけないんだーいけないんだー。

コウイチ

何だよ！

ダイスケ

いいのかなー？お盆に虫なんか捕っちゃって。あれ？お前知らねーの、お盆に虫捕っちゃいけないんだぜ。

コウイチ

なんでだめなんだよ。

ダイスケ

昨日法律で決まったってニュースで行ってたんだよ。

コウイチ

なんて法律だよ。

ダイスケ

生類憐れみの令。お前ら全員打ち首だかな。

コウイチ

ばかじゃねーの。

ケンタ

江戸時代かよ。

コウイチ

行こうぜ。

ケンタ

うん。

ダイスケ

なんだと！とにかくその虫よこせ！

ケンタ

やっぱダイスケも欲しいんじゃない！

ダイスケ

ああ欲しいよ。欲しくて悪かったな！

もめる少年たち。

少女（ユミ）、無言でその前を横切り、すごい業で虫を捕まえる。

三人

スゲー！

ダイスケ

今の何！

ケンタ

吹き矢っていうんだよ。

コウイチ

それってどうなってるの？

ケンタ

吹いたら針が飛び出すんだ。

コウイチ

スゲー。

ダイスケ

・・・でもそれって、虫死んでない？

三人 あ．．．。

三人、もめていると、ユミが近づきリュックからブーメランを取り出しダイスケに差し出す。

ダイスケ これで虫捕りはちょっと．．．。

コウイチ・ケンタ 貸して、貸してー！

ダイスケ 放せよ！

ケンタ ちよっとぐらいいいだよ。

ダイスケ ダメなもんはダメなんだよ。

コウイチ どうせ使えないだろ。

ダイスケ めちゃくちゃ使えるよ。

コウイチ じゃ、やってみろよ。

ダイスケ やってやるよ。百発百中だかな。おい、お前的やれよ。

ケンタ えー。

ダイスケ いいからカゴもって立ってろよ！

ダイスケ、ブーメランを投げる。子どもたち、状況によってリアクション。

次はコウイチが投げようとする。ユミ、かばんからもつとすごい武器を取り出して狙う。

三人 スゲー！

三人、取り合う。コウイチ、すごい武器。ダイスケ、ブーメラン。真ん中であたふたするケンタ。

ケンタ やめろよ。あぶないよ。しんじやうよお．．．フアイト！

ダイスケとコウイチ武器を構え一触即発。

そこに、現れるユキオ。みんなの様子に驚く。

ユキオ ごめん、遅くな．．．。

ダイスケ 遅かったな。

コウイチ お前もやるか？

ユキオ、二人を見つめて。

ユキオ 果し合い？

ダイスケ 馬鹿！違うよ。

コウイチ 虫捕りだよ。虫捕り。

ユキオ あー、虫捕り。

ケンタ ユミちゃんすごいんだよ。虫捕りめちやくちやうまいの。

ユキオ ホント？

ダイスケ はっきりいって達人だね。

みんな、虫捕りを始めようとする、と、

ユキオ ちょっといいかな。こいつも入れて欲しいんだけど。

少年（サキオ） 現れる。

ダイスケ 誰？

ユキオ （少し歯切れ悪く）親戚の子。夏の間だけこっちに遊びにきてんだ。

ダイスケ （サキオに）名前は？

サキオ 「サキオ」。

ダイスケ 「サキオ」？ふつ、変な名前。お前もやるか？虫捕り。

サキオ （頷く）

ダイスケ 使えよ。（ブーメランを渡す）

サキオ ……。

ダイスケ よーし、始めようぜ。

ブーメランを受け取ったサキオ、扱いに困り、ブーメランを使い一発ギャグ。

全員、思い思いの場所ですばらくの間虫を探す。サキオ、ブーメランを投げ捨てすぐにユキオのそばへ。

ユキオ、木の高い場所にカブトムシを見つける。

ユキオ カブトだ！

ダイスケ どうせメスだろ。

ユキオ ううん。オス！

ダイスケ うそ！

全員、ユキオのところへ集まり、見上げる。

コウイチ どこだよ。

ユキオ あそこ。枝の根元の辺り。
ケンタ あ、いた！
ダイスケ すげえ。オスのカブトだ。

全員、ユキオを見守る。
危なっかしい手つきだが何とか捕まえる。

コウイチ やった！
ダイスケ ゆっくり！ゆっくり降ろせ。

全員、網のあたりに集まる。ダイスケ、カブトムシを取り上げる。

コウイチ すげー！本物だ。
ケンタ やったな。ユキオ！

みんなで収穫を称えあう。ダイスケ、おもむろに自分の虫かごに入れようとする。

サキオ （ダイスケに気づいて）あ。
コウイチ おい！
ダイスケ え？
コウイチ 何やってんだよ。

ダイスケ 「何」って、カゴに入れてんだよ。
ケンタ それ、ユキオが捕まえたんだよ。
ダイスケ 何言ってんだよ。最後に捕まえたの俺だろ。ユキオは下に降ろしただけで、捕まえたのは俺。
ケンタ なんて卑怯な・・・。
コウイチ ずるいぞ、ダイスケ。

陰悪な雰囲気になる。ユキオ、なだめる。

ユキオ いいから、僕は。みんなで捕まえたんだし。
ダイスケ さすがユキオ。話がわかる。
コウイチ いいのか？
ユキオ うん。
ダイスケ ほら、ユキオもいって言ってんだから。

なんとなく嫌な空気。その様子を、サキオ悔しそうな顔で見ている。

コウイチ よし！虫捕りはこれくらいにして、かくれんぼしようぜ。
ケンタ いいねえ。

全員でじゃんけん。サキオ負ける。
かくれんぼ。鬼のサキオを残し、みんなどこかへ隠れる。

サキオ いーち。にーい。さーん・・・じゅう。もーいーかい。

返答なし。

サキオ もーいーかい。

顔を上げ、探す。しばらく探す。なかなか見つからない。だんだん不安になってくる。もうみんな帰ってしまったのかもしれない。しかし、みんなの荷物がまだあることに気づく。近づく。ダイスケの虫かごを手にする。中にはカブトムシ。あたりをうかがい、人の気配がないことを確認し籠の中から出す。砂場の上へ置き、じっと見つめる。突然、踏み潰す。
どこから歌声（『ぼくらはみんな生きている』）が聞こえてくる。サキオ、慌ててカブトムシの死体を砂場に埋める。二人の少女が歌いながら現れる。

サキオ 見てたの？

ユキ 見てた？

サキ 何を？

ユキ さあ？

サキオ あ、いいんだ。見てないなら・・・それで、何してるの？君たち。

ユキ 歌ってたの。

サキ 歌ってたの。

サキオ 何歌ってたの？

ユキ・サキ、『ぼくらはみんな生きている』を歌いだす。

最後の「アメンボだつて」のところだけ悲しげな鼻歌でカブトムシの埋められたところを指差す。

サキオ 見てんじゃん！

ユキ うん。見てたよ。

サキ 殺してたよ。カブトムシ。

サキオ しっ！声が大きい。見つかったらまずいだろ。

ユキ 見つかったかった。

サキオ え？

サキ みつつ買ったかった。

サキオ ・・・何買ったの？

ユキ あめ玉。三つ買ったから一個あげる。見つからないように。

サキオ ありがと・・・。

サキ みつつ買ってよかったね。

ユキ みつつ買ってなかったら分けられなかったね。

サキオ 秘密にしてくれる？

ユキ 何を？

サキオ カブトムシのこと。

ユキ みつつ買ったからひみつにしてあげる。

サキ うん。ひみつだね。

サキオ ありがと・・・。

ユキ 秘密にしてあげるから遊んで。

サキ 隠しててあげるから遊んで。

サキオ 何して遊ぶ。

ユキ・サキ 隠してあげるからくれんぼ。じゃーんけーんぼん。

サキオ負ける。

ユキ

鬼だ。

サキ

鬼だ。

かくれんぼ。サキオ鬼。

サキオ

いーち、にーい、さーん・・・

数えている間に、二人は舞台奥に消えていく。両袖から少年たちがゆつくりと現れる。

サキオ

はーち、きゅーう、じゅーう。もーいーかい。

ダイスケ

もういいよ・・・。

サキオ

え？

コウイチ

お前いつまで数えてんだよ。

サキオ

みんな、どうしたの？

ユキオ 「どうしたの？」じゃないよ。はやく探しにこいよ。
ケンタ ユミちゃんなんか完璧に隠れてたのに。

ユミ、ゲリラ兵のようないでたちで草むらから出てくる。

サキオ ごめん。

みなが口々に文句を言っている間を割り、サキオ、何かを探す。

ダイスケ どうしたんだよ。

サキオ ……あの子たちは？

コウイチ 「あのコ」？

サキオ よく似た双子の女の子。

ユキオ 双子？

ケンタ 見た？

コウイチ ううん。

ダイスケ 何言ってるんだよ。

サキオ さっき一緒にかくれんぼしてたの。

コウイチ かくれんぼしてたの俺たちとだろ。

サキオ みんなともしてたけど、女の子ともしてた。

ケンタ 大丈夫？

サキオ ホントだってば！

ユキオ うん。わかったから。

少し気まずい雰囲気。

ダイスケ もういいから虫捕りやろーぜ。

皆、虫捕りを始める。

ダイスケ、虫かごの異変に気づく。

ダイスケ あー！

コウイチ どうした？

ダイスケ いない！

ケンタ 何が？

ダイスケ カブトムシ！

ユキオ うそ！

みんなダイスケのほうに集まる。

コウイチ ホントだ。

ケンタ 逃げたのかな。

ユキオ 閉め忘れた？

ダイスケ ばか！そんなドジするかよ。

ケンタ じゃあ？

ダイスケ おいサキオ！

サキオ はい！（びくっとなる）

ダイスケ どこだ！

サキオ え、何が？

ダイスケ とぼけるなよ。

サキオ と、とぼけてないよ。

ダイスケ 他に考えられないだろ。

サキオ でも知らないし。

ダイスケ 知らないはずないだろ。

サキオ でも・・・。

ダイスケ どこいったんだよ！その双子！

サキオ え？

ダイスケ そいつらがもっていったに決まってる。

ケンタ だってオスのカブトだもんね。

ダイスケ そいつらどっち行った！？

サキオ あっち、かな？（適当に指差す）

ダイスケ 行くぞ！

ダイスケ・コウイチ・ケンタ・ユミ、荷物を持って走っていく。ユキオとサキオ残

される。

傾く日。

ユキオ ホントか？

サキオ え？

ユキオ 双子。

サキオ うん。よく似てた。

ユキオ ・・・。

サキオ 信じてないの？

ユキオ 信じるよ。見たんだろ、ホントに。

サキオ うん。・・・でもその子たちがカブトムシ盗ったかは・・・。
 ユキオ 気にすんな。みんな、すぐに忘れちゃうよ。
 サキオ うん・・・。
 ユキオ カブトムシ、また捕ってやるから。
 サキオ ホント！？
 ユキオ ああ。知ってるか？カブトムシって夜行性なんだぜ。
 サキオ 何？ヤコウセイって？
 ユキオ 昼じゃなく、夜活動するってこと。
 サキオ そうなんだ。
 ユキオ だから、ホントは昼間より夜のほうがよく捕れるんだ。
 サキオ すげえ。兄ちゃんなんでも知ってたんだ。
 ユキオ ああ。兄ちゃんなんでも知ってたんだ。だから、もっかいカブトムシ捕まえて、今度はサキオにやるよ。
 サキオ ホントに？
 ユキオ ああ。もう一回。
 サキオ やった！
 ユキオ ・・・それで、いつまでこっちにいられる？
 サキオ ・・・お盆が終わるまで。
 ユキオ そっか。すぐだな。
 サキオ うん。
 ユキオ （暗い顔）
 ユキオ ・・・続き。
 サキオ え？
 ユキオ お話の続きしてやるよ。夕暮れの街の。
 サキオ うん。
 ユキオ ユキちゃんとサキちゃんは、とっても歌が好きなんだ。だからいつでも歌ってる。
 サキオ （暗い顔）
 ユキオ ・・・どうした？
 サキオ あの・・・兄ちゃん。カブトムシのことなんだけど・・・。
 ユキオ 気にすんな、少年。兄ちゃんいっぱい捕ってやるから。
 サキオ うん・・・。
 ユキオ どうした？
 サキオ ううん。なんでもない。
 ユキオ よし。じゃ、行こっか。

ユキオとサキオ帰る。日はさらに傾く。どこからか聞こえてくるユキとサキの歌

声（ 夕焼け小焼け♪ ）

暗転。

賑やかな音楽の中、巨大な四体の虫（カブトムシ・てんとう虫・カマキリ・蝶）が浮かび上がる。虫たち音楽に合わせ踊りだす。
袖からユキオとサキオ出てくる。わけのわからない状況に呆然とする。

ダイスケ （カブトムシから出てきて） はい、オッケー！

それぞれの虫から四人出てくる。

ダイスケ いやー、みんな良かったよ。

みんなで盛り上がっている。

ユキオ ……何、これ？

ダイスケ ワナだよ、ワナ。

ユキオ ワナ？

ダイスケ ああ。俺の考えたところサキオが見たという双子は虫に目がない。それでこれだ。

ユキオ これ……。

ダイスケ 例の双子が来る。虫をみつける。捕まえようとする。そこを俺たちが取り囲む。これぞ「飛んで火にいる夏の虫」作戦！

ユキオ そんなムシのいい話……。

ダイスケ うまくいくに決まってるだろ。これでやつらもムシの息だ。

サキオ でも、あの子たちムシも殺さないような顔してた。

ユキオ 一寸のムシにも五分の魂って言うし。

ダイスケ うるせー。俺はカブトムシ捕られてムシの居所が悪いんだよ！とつとと配置につけ！

ユキオ、蝶の後ろへ回り込む。サキオ、カブトムシの裏に回ろうとするところをダイスケに捕まる。

ダイスケ バカ！そこは俺だよ！

サキオ 僕のは……？

ダイスケ お前は偵察だ偵察。誰か来たら報告しろ。

サキオ 偵察？

ダイスケ 「ムシのしらせ」だ！

サキオ やだやだ・・・

ダイスケ うるさい！

ダイスケ、かぶっている兜を調えている。サキオその様子を見つめる。二人目が合う。

ダイスケ 勝ってカブトの緒を締めよ。

ダイスケ、虫の裏に隠れる。サキオ、ししぶ偵察。しばらくすると下手に誰かの気配。

サキオ 誰か来るよ。（小声で）

サキオ、物陰に隠れる。

大きなトランクを持ったサラリーマン風の男やってくる。

ダイスケの「今だー」という声を合図に全員、虫から顔を出す。が、獲物ではないと気づきすぐにひっこむ。ダイスケだけが取り残されている。男と目が合い、まずい空気。ダイスケ静かに引っ込む。男、頭をひねりながら去っていく。みんな出てくる。

ダイスケ 何やってんだよ！

サキオ 誰か来たから報告を・・・

ダイスケ 報告すりゃいいってもんじゃないだろ。

コウイチ 俺たちが探してんのはお前が見たっていう女の子なんだから。

サキオ でも・・・

コウイチ さっきのどう見てもおっさんだろ。

ダイスケ オスカメスカぐらい見分けるよ。

サキオ うん・・・。（何かに気づいて）あ！

全員、急いではこの中に隠れる。

ダイスケ （顔を出して）メスカ？

サキオ うん。メス。

ダイスケ よし。みんな来たぞ。

全員、隠れて準備。

日傘を差した婦人やってくる。虫たち取り囲む。不審に思い傘でつつく。虫たち逃げる。なおつつく。逃げる。最後にカブトムシにとどめを刺し、去る。

サキオ 行ったよ。

ダイスケ 何やってんだよ！

サキオ ちゃんと報告したよ。女だって。

ダイスケ 二人いるかどうかぐらいすぐわかるだろ！

コウイチ 俺たちが探してんのは双子なんだから。

ダイスケ しっかりしろよな。

サキオ あ！

全員慌てて箱の中へ。

ダイスケ 誰か来たか？

サキオ 来た。

コウイチ 女か？

サキオ うん・・・多分。

ケンタ 人数は？

ダイスケ そうだ。二人いるかちゃんと。

サキオ うん！二人いる。間違いない。

ユキオ 似てるか？

サキオ うん！そっくり！

ダイスケ よーし、ついに来たぞ。

車椅子の老人現れる。一人は車椅子に乗り、もう一人が押している。墓参りに行くという風情。虫に気づき近づく。ありがたそうに拝み、去っていく。

ダイスケ どういうことだよ！

サキオ ちゃんと二人いたよ。

ダイスケ ババアだろ、今の。

サキオ よく似てたし。

ダイスケ ババアは年とりや似てくるんだよ！

ケンタ ダイスケおがまれてたね。

ダイスケ うるせー！集合だ、集合。

皆で作戦が失敗したことを罵りあう。

ユミ、無言で輪を離れ地面を見つめる。みな、後に続く。

ケンタ　　ありだ。

コウイチ　巢じゃねーの？

ダイスケ　水汲んで来い。水。

ケンタ、バケツに水を汲んでくる。

ダイスケ　洪水。

ダイスケ、巢の上から水を全員、アリのおぼれるさまを観察。楽しそう。

誰かがかまれた。それを合図に、全員地面のありを踏みつけ始める。ひとしきり殺した後で。

ケンタ　　あ。

ダイスケ　どうした？

ケンタ　　思い出した。

コウイチ　何を？

ケンタ　　なんでお盆に生き物殺しちゃいけないか。

ダイスケ　なんでだよ。

ケンタ　　帰ってくるんだ。

ダイスケ　何が？

ケンタ　　死んだ人が。

ダイスケ　は？

ケンタ　　一年に一度死んだ人の魂が帰ってくるんだ、いろんな生き物に姿変えて。

コウイチ　じゃ、もしかしてこのアリも・・・。

ケンタ　　うん。僕たちのご先祖様かも。

間。

コウイチ　どうしよう・・・。いっぱい殺しちゃった。

ダイスケ　俺なんか洪水起こしちゃったし・・・。

みな、気まずい笑い。

ダイスケ　ごめん。ご先祖様・・・。

間。

コウイチ あ。

ダイスケ 何だよ？

コウイチ このアリが、死んだ人の生まれ変わりかもしれないんだよね
ケンタ うん。

コウイチ だったら、死んだらまた人に生まれ変わるのかな？

間。

全員、履いていた靴を手にし、一斉にアリを叩き殺す。

ダイスケ よし、こんなもんな。

ケンタ これでご先祖様も人に生まれ変わるかもね。

ダイスケ ありじゃかわいそうだもんな。

コウイチ 一日一善だ。

ケンタ あ、まだいた。

ダイスケ 死ねえ！

ケンタ 待って。（ダイスケを制す）

ケンタ、地面を見つめる。アリの行列。みんな近づいてくる。アリはどこから何かを運んでいるようだ。子どもたち観察しアリの行方を追う。砂場にたどり着く。砂の中に何かがある。誰かが砂を除ける。中から出てきたものはつぶれたカブトムシの死体だった。

コウイチ これ・・・。

ケンタ うん・・・。

ユキオ でも、ダイスケのかどうかは・・・。

ケンタ そうだね。別のカブトムシかもね。

ダイスケ ばか。よくみてみるよ。カブトムシがこんな死に方普通するか？

ケンタ つぶれてるね。

コウイチ 埋めてあったし・・・。

ダイスケ 誰かが殺してうめたんだ。

ユキオ じゃあ、一体誰が・・・。

ダイスケ あいつらだ。

ユキオ え？

ダイスケ 例の双子だ。

ユキオ そうかな？

ダイスケ

そうに決まってる。

ケンタ

どうしてそう言い切れるの？

ダイスケ

誘拐事件の結末は？

コウイチ

見つかるのをおそれて殺しちゃう。

ダイスケ

だろ。

ケンタ

なるほど。

ダイスケ

俺たちの捜査におそれをなして殺したんだ。

コウイチ

ひどすぎる。

ユキオ

でも女の子がこんな残酷なことするかな。

ダイスケ

じゃ、あり得ないって言えるか？

ユミがあたりを踏み潰している。

ユキオ

あり得るかも・・・。

コウイチ

よくこんなひどいことができるよな。

みな、口々にカブトムシを踏み潰した残虐さを罵る。

サキオ

あの・・・。

ダイスケ

なんだよ。

サキオ

カブトムシは殺しちゃいけないの？

ダイスケ

はぁ？

サキオ

カブトムシって殺しちゃいけないの？

ダイスケ

何馬鹿なこと言ってるんだよ。そんなのジョーシキだろ。

サキオ

なんでアリならよくてカブトムシはダメなの？

ダイスケ

それは、あれだ、そのー、ほら、コウイチ！

コウイチ

かっこいいから。

サキオ

え？

コウイチ

アリよりもカブトムシのほうがかっこいいだろ。だからだよ。

サキオ

どっちも虫だよ。

コウイチ

ばーか、全然違うよ。

サキオ

どこが？

コウイチ

光沢。

サキオ

こうたく？

コウイチ

黒光りするボディーに男は惹かれるんだよ。

サキオ

アリだって黒いよ。

コウイチ

黒いだけじゃない。

サキオ　じゃあ？

コウイチ　カブトムシは飛ぶんだぜ。かっこいいだろ。

サキオ　羽根アリは？

コウイチ　．．．。

ケンタ　あれだ、きっと大きさだ。

サキオ　大きさ？

ケンタ　うん。羽根アリも飛ぶかも知んないけど小さすぎてなんだかよくわかん

ないだろ。でもカブトムシは飛んでも何かわかるだろ。

ダイスケ　なるほど。

サキオ　ゴキブリは？

ケンタ　．．．。

サキオ　ゴキブリも飛ぶよ。黒光りしてるし。

ダイスケ　ユキオ、こいつおかしいぞ。

コウイチ　なんとかしてくれよ。

ユキオ　うん．．．。

ケンタ　お墓作ろ。

ダイスケ　カブトムシの？

ケンタ　うん。

コウイチ　アリに食われるのもかわいそうだもんな。

サキオ　アリはかわいそうじゃないの？

コウイチ　またかよ。

サキオ　アリにはお墓作らなくていいの？

ダイスケ　こんなにいっぱい作れるかよ。

サキオ　いっぱいだったら作らなくていいの？一匹だったら作ってあげるの？

ケンタ　アリはほら、生まれ変わるから。

サキオ　生まれ変わるから作らないの？作らないから生まれ変わるの？

ダイスケ　いい加減にしろよ。

サキオ　人はどうなるの？お墓作ったら生まれ変わらないの？お墓がなかったら生

まれ変わる？生まれ変わって何？お盆に死んだ人が帰ってくるってど

ういうこと？帰ってくるってことは生まれ変わってないってこと？ねえ、

どういうこと？アリとカブトムシはどう違うの？死んだ生き物食べるか

らいけないの？じゃ、牛はかわいそうじゃないの？豚は？鳥は？死んだ

生き物食べる人は？人はいいの？人は悪くない？人はかわいそう？人は

死なくていい？人は．．．人は．．．。

サキオ、　錯乱してくる。みんな気味悪く感じる。

ユキオ サキオ！
サキオ え？（はっとして）

間。

ダイスケ 俺、もう帰るわ。
コウイチ 俺も。

ダイスケ・コウイチ・ケンタ・ユミ、なんだか気まずくなつて帰ろうとする。
ユキオとサキオ残される。

ユキオ （みんなの作ってきた虫がほったらかしなのに気づいて）これどうすんの！

返事は返つてこない。ユキオ、無言で片付け始める。サキオ立ち尽くしている。
ユキオ、カブトムシの墓を作る。

サキオ ……ごめん。
ユキオ 気にすんなって。そうだ、お話しの続きしてやるよ。ユキちゃんとサキちゃん
はさ、双子なんだ。だから生まれてからずっと一緒。二人で一つを二人で。
ごめん。

サキオ 明日になったら忘れてるよ。みんな。ちょっと変なこと言っただぐらい。
サキオ そうじゃなくて。

ユキオ え？
サキオ カブトムシのこと。
ユキオ カブトムシの、何？
サキオ 殺した。

ユキオ え？
サキオ カブトムシ、僕、殺した。
ユキオ なんで、なんでそんなこと…。
サキオ 悔しかったから。
ユキオ 何が。

サキオ あのカブトムシは兄ちゃんがとったんだ。兄ちゃんのカブトだったのに。
ユキオ だからって、殺すことないだろ。
サキオ 悔しくないの。
ユキオ え？

サキオ　　ダイスケばかりいばっててき、兄ちゃん悔しくないの。

ユキオ　　サキオ・・・。

サキオ　　兄ちゃん二人でいる時もっとすごいのに、なんであいつらという時弱いんだよ。

ユキオ　　・・・。

サキオ　　なんで黙ってるの。なんか言ってよ。そんなの兄ちゃんらしくないよ。僕の知ってる兄ちゃんは、兄ちゃんは・・・。

ユキオ、サキオの頬を打つ。

ユキオ　　兄ちゃん兄ちゃんうるさいんだよ！

サキオ、ユキオに飛びかかる。突き返すユキオ。勝敗ははじめからわかっている。それでも繰り返すとびかかるサキオ。二人のケンカがひとしきり続いたあとで。

ユキオ　　そんなに嫌だったら兄ちゃんって呼ぶな！

ユキオ、去る。一人残されるサキオ。兄の作ったカブトムシの墓が目に入る。それをめちやくちやに踏み潰す。その上にしゃがみこみ、膝を抱えて泣く。

サキオ　　もう、いいよ・・・。

不意に虫の中からユキとサキが出てくる。

ユキ　　もういいよ。

サキ　　もういいよ。

サキオ　　え？

ユキ　　はやく探してよ。

サキ　　はやく探してよ。

ユキ　　せっかく隠れてたのに。

サキ　　隠れてたのに。

ユキ　　早くしないと日が暮れるよ。

サキ　　日が、隠れるよ。

サキオ　　あの・・・。

ユキ　　泣いてたの？

サキ　　泣いてたの？

サキオ　　ううん。泣いてない。

ユキ　嘘だ。泣いてた。
サキ　うん。泣いてた。
ユキ　見っからなくて泣いてたんだ。
サキ　見っからなくて泣いてたんだ。
サキ　違うってば。・・・見っかったから、泣いてたんだ。
ユキ　何が見っかったの？
サキ　何が見っかったの？
サキ　カブトムシ、殺したこと・・・。
ユキ　殺しちゃったの？
サキ　カブトムシ。
サキ　うん。殺した・・・。
ユキ　氣にするな、少年。
サキ　え？
サキ　氣にするな、少年。
サキ　どうして。
ユキ　どうせいつか死んじやうよ。
サキ　どうせいつか死んじやうね。
サキ　え？
ユキ　いつかみんな死んじやうね。
サキ　いつかみんな死んじやうよ。
ユキ　だから、
サキ　氣にするな、少年。

ユキとサキ、サキオが壊した墓のあたりにカブトムシの死骸を見つける。

ユキ　カブトムシだ。
サキ　カブトムシだ。
ユキ　死んでるね。
サキ　死んでるね。
ユキ　帰らないといけないね。
サキ　帰らないといけないね。
サキ　もう、帰っちゃうの？
ユキ　私たちがなくて。
サキ　カブトムシさん、もう帰らないと。
サキ　どこに？
ユキ・サキ　あっちに。（段の奥を指差す）

二人、カブトムシの死骸をつまみ上げ、『ぶーん』といいながら舞台奥の段上へ。サキオを手招きして呼ぶ。サキオ、段上へ行き、三人並ぶ。

ユキ さよなら。

サキ さよなら。

カブトムシを遠くへ放り投げる。段上暗くなる。ヒグラシの声。
袖から子どもたちの声。ユキオ・ダイスケ・コウイチ・ケンタ・ユミ現れる。

ダイスケ 「さよなら」　ってどういうことだよ。

コウイチ わけかんねーよ。

ケンタ ちゃんと説明してよ。

ユキオ だから、もうみんなと一緒に遊べないんだ。

ダイスケ その理由を説明しろって言ってんの。

ケンタ そうだよ。それ聞かないと納得できないよ。

コウイチ わかった！カブトムシだ！

ユキオ ……

コウイチ やっぱり。

ケンタ どういうこと？

コウイチ 決まってるんだろ。ダイスケがカブトムシ横取りしたからだよ。

ダイスケ 俺のせいだよ！

コウイチ 当然だろ。

ケンタ そうだったのか。

コウイチ ユキオ、気にすんな。

ダイスケ そうだ、気にすんな。

ケンタ うん。明日からダイスケは破門にするから。

ダイスケ 何勝手に決めてんだよ！

三人もめる。

ユキオ 殺した。

ダイスケ え？

ユキオ カブトムシつぶれてたろ。あれ、僕が殺したんだ。だから、もうみんなと遊べない……。ごめん。

間。三人笑い出す。

ダイスケ
カブトムシ？
コウイチ
殺した？

笑う。

ユキオ
ホントだってば！カブトムシ死んでたろ。
ケンタ
死んでたって、どこで。
ユキオ
ここで！

ユキオ、カブトムシを埋めたはずの砂場を指差す。しかしそこに墓はない。

ダイスケ
お前、大丈夫か？

ユキオ
お墓は・・・？

ケンタ
お墓？

ユキオ
カブトムシ、埋めたんだ。

ダイスケ
墓なんかないよ。

ユキオ
え？

コウイチ
カブトムシは盗まれたんだろ。

ユキオ
それは・・・。

ケンタ
ユキオが言ったんだろ。双子が持って行っちゃって。

ユキオ
僕が、言った・・・？双子、見たって・・・。

ケンタ
大丈夫？

ユキオ
サキオ！

ユキオ、突然走り去る。咄然とする四人。

ダイスケ
なんだ、あいつ。

ケンタ
あんなに慌ててどこ行っちゃんだろ。

ダイスケ
さあ？

コウイチ
わかった！墓参りだ。

ケンタ
そっか。お墓がどうのって言ってたね。

ダイスケ
そーいや、お盆っていつまでだっけ。

コウイチ
わかんないけど、そろそろかな。

ダイスケ
行った、墓参り？

コウイチ
ううん。

ダイスケ
俺たちも行っとくか。

四人、走り去る。段上の三人動き出す。

ユキ・サキ ♪しゃぼん玉とんだ 屋根までとんだ
屋根までとんで 壊れて消えた

ユキ かぜかぜ吹くな しゃぼんだまとはそ

ユキ 飛んでったね、カブトムシさん。

サキ 飛んでったね。

サキオ 飛んだんじゃなくて投げ飛ばしたんじゃ。

ユキ 文句ある？

サキ 文句ある？

サキオ ．．．うん。ない．．．。

ユキ そ、ならよかった。

ユキ・サキ砂場の前にしゃがみこむ。砂をさらさらと手の中からこぼして。

ユキ はかないねえ。

サキ なに「はかない」って？

ユキ お墓が、ないってことだよ。

サキ そう。

ユキ はかないねえ。

サキ はかないねえ。

ユキ 紅だね。

サキ 紅だね。

ユキ 真っ赤にもえて紅だね。

サキ 真っ赤に燃えて紅だね。

ユキ それくれない？

サキ これあげない。

ユキ これあげる。

サキ それいらない。

サキオ ．．．あの、君たちの名前は？

ユキ ユキだよ。

サキ サキだよ。

サキオ もしかして、君たち、暮れない街の女の子じゃ．．．。

ユキとサキ、顔を見合わせて笑う。

ユキ 変なの。

サキ 変なの。
ユキ もうすぐ暮れるのにね。
サキ 暮れるのにね。
ユキ 帰らないといけないね。
サキ 帰らないといけないね。
サキオ 帰っちゃうの？
ユキ 私たちじゃなくて。
サキ サキオ君、もう帰らないと。
サキオ どっちに？
ユキ・サキ あっちに。（段の向こうを指差す）
サキオ まだ早いよ。
ユキ もうすぐ暮れるよ。
サキ もうすぐ暮れるよ。
サキオ じゃあ暮れるまで。
ユキ でも暮れちゃったら。
サキオ 暮れちゃったら？
ユキ・サキ お盆が終わっちゃう。
サキオ そっか。終わっちゃうんだ。
ユキ うん。終わるよ。
サキ だから帰らなきゃ。
サキオ その前に兄ちゃんのところに。
ユキ 帰れないよ。
サキ 帰れないよ。

ユキとサキ、二人で通せんぼ。

サキオ そこ、通して。
ユキ・サキ ♪通りゃんせ通りゃんせ
ここはこの細道じゃ
天神様の細道じゃ
ちっと通してくださいんせ
御用のないもの通しやせぬ
この子の七つのお祝いに
お札をおさめにまいます
ゆきはよいよい帰りはこわい
こわいながらも通りゃんせ通りゃんせ
ユキとサキは二人で一つ。

サキ ユキサキのサキがないと
ユキ ユキだけだから帰れない。
ユキ・サキ サキオ君。もう死んでるよ。

ユキとサキ、笑いながら消える。世界は闇に包まれる。一筋の光が差し込むと、その中にサキオ、たった一人、倒れている。ゆっくりと起き上がり、歩こうとする。ユキオ駆け込んでくる。

ユキオ サキオ！・・・さっきは、ごめんな。
サキオ もういいよ。
ユキオ もう行っちゃうのか。
サキオ そろそろ、帰らないと。
ユキオ どこに。
サキオ あっちに。
ユキオ サキオ。
サキオ もう、お盆も終わっちゃう。
ユキオ 来年も、帰ってくるか。
サキオ ・・・わかんない。
ユキオ どうして。
サキオ そろそろ僕も、生まれ変わらなきゃ。

サキオ、背を向ける。

ユキオ サキオ！また兄ちゃんって呼んでくれるか。
サキオ ・・・兄ちゃん！
ユキオ また帰って来いよ！
サキオ 兄ちゃん！
ユキオ 絶対だからな！
サキオ 兄ちゃん！
ユキオ ずっとずっとお前の兄ちゃんなんだからな！
サキオ 兄ちゃん！兄ちゃんが父ちゃんになっても、じいちゃんになってもずっとずっと兄ちゃんは兄ちゃんだ。
サキオ サキオ！
兄ちゃん！僕、アリになって、カブトムシになって、数え切れないほど生まれ変わって、いつか、いつかまたきつと、兄ちゃんの弟に生まれてくる。その時はまた、暮れない街の物語聞かせてね。
ユキオ 何度だって聞かせてやる。これから兄ちゃん、一人で生きてゆくけど、

その先で絶対待ってろよ。ユキとサキは二人で一つ、一つを二人でだ。だからいつか出会うその行き先で、もっかい兄ちゃんって呼んでくれ。

サキオ

兄ちゃん！

ユキオ

もう一回！

サキオ

兄ちゃん！

ユキオ

もう一回！

サキオ

兄ちゃん！

ユキオ

もう一回！

サキオ

兄ちゃん！

サキオ、最後に力いっぱい兄を呼び、光の中に消える。それは、この場所へ帰って来るための出発なのかもしれない。いつか二人が再び巡り会う行き先を見つめて。

ユキオ、涙でにじむサキオの姿を見送る。

ユキオ

もう、いつかい・・・。

夕暮れ。一人ひざを抱え泣いているユキオ。不意に虫の中から声がする。

ダイスケ

もう、いいよ。

ユキオ

え？

仲間たちそれぞれ虫の中から現れる。

コウイチ

お前いつまで数えてんだよ。

ユキオ

みんな・・・。

ダイスケ

「みんな」じゃないよ。はやく探しにこいよ。

ユキオ

ごめん。

ケンタ

あれ、ユキオ、泣いてる？

ユキオ

い、いや。全然。

ダイスケ

わかった。お前みんながみつканなくて泣いてたんだろ。

コウイチ

情けね。

ユキオ

違うよ！全然、そんなじゃないよ。・・・あの、サキオは？

ダイスケ

サキオ？なんだそれ？

ユキオ

名前なんだけど・・・。

コウイチ

変な名前。

ケンタ

それ誰？

ユキオ いや、いいんだ。知らないなら。
ダイスケ 変なやつ。

みんな笑う。

ケンタ あ、アリだ。（行列を見つける）
コウイチ ホントだ。

みんなで観察。

ダイスケ しっかりこいつらどこから出てくんだろうな。
ユキオ ……また殺すの？
ダイスケ ばか！そんなガキみたいなことするかよ。
コウイチ お前はなんて残酷なこと言うんだよ。
ユキオ だってこの前は…。
ダイスケ 昔の話なんかすんなよ。お前はじじいか。
ケンタ それに虫殺すなんて言ったら僕たちが殺されちゃうよ。
ユキオ 殺されるって誰に？

ユミ、虫の中から顔を出し、武器で狙っている。

ユキオ はっ！

殺気に気付き振り返る。ユミ、引込む。

ユキオ 今の、何？
ケンタ ユミちゃん。
ユキオ 何してるの？
ダイスケ なんかしんないけど、急に虫殺しちゃいけないって言い出して…。
ケンタ 保護するんだってさ、虫。
コウイチ で、ああやって監視してるの。虫殺すやついないか。
ユキオ 監視？
コウイチ ああ、一日一善だ。

そこに車椅子の老人通りかかる。みんなの見ていたアリの行列を踏みつぶしていく。ユミ、気配を消して虫の中から出てきて老人のあとをつける。みんな、慌てて止める。

四人

あたりは夕暮れの風景。人々、オレンジ色に溶けていく。その中には双子の姿もある。

ユキ
暮れないね。

サキ
暮れないね。

ユキ 今日もなかなか暮れないね。

サキ
今日もなかなか暮れないね。

ユキ
紅だね。

ユキ

今日もお日様紅だね。

サキ
真つ赤に燃えて紅だね。

ユキ
それくない？

サキ
これあげない。

ユキ
これあげる。

サキ
それいらない。

ユキ
日が暮れるよ。

サキ

日が、隠れるよ。

ユキ
もう六時だね。

サキ
もう六時だね。

ユキ　もうろくじじいだね。（車椅子の老人をみて）

サキ

じじいじゃないよ、ばばあだよ。

ユキ
ばばあじゃないよ、じじいだよ。

どっちでもいい。

ユキ
どつちでもない。

サキ
夜でもない。

ユキ
夜でもない。

サキ
昼でもない。

ユキ
昼でもない。

サキ
夕暮れだね。

ユキ

夕暮れだね。

サキ
続きは？

ユキ
続き？

サキ
お話しの。

ユキ
お話し。

サキ 二人は会うの？会わないの？
ユキ 会うのかな。会わないのかな。
サキ もう、どっち？
ユキ それはひみっつだよ。
サキ なんでひみっつなの。
ユキ でもね、サキちゃん。
サキ なあに、ユキちゃん。
ユキ ユキとサキは二人で一つ。
サキ 一つを二人で。
ユキ だからね。
サキ だから？
ユキ 二人の行き先は一つ。
サキ その行き先は？
ユキ きっと、暮れない街。

ゆつくりと日が落ちる。
その中に浮かび上がる、いつか出会うであろうユキオとサキオの後ろ姿。

——了——

「暮れないマーチ」